

『台湾茶ワークショップ』を開催

2月14日、上飯樋地区のカレー&カフェ Andanteで、NPO法人福島台湾経済文化交流協会主催による『台湾茶ワークショップ』が開催されました。講師は、オンラインで台湾茶を販売する専門店「茶聴(チャテイン)」店主の王孟石さん。台湾から直接輸入した茶葉を使い、台湾茶の特徴や魅力、美味しい淹れ方を紹介しました。参加者は「すっきりした味わい」「優しい甘み」などと香りや味わいの感想を述べ合い、交流も楽しんでいました。



シルバー人材センター支援を要望

2月12日、福島県シルバー人材センター及びそうま広域シルバー人材センターの皆さんが村を訪れ、そうま広域シルバー人材センターの横山昌義理事長が『地域社会に貢献するシルバー人材センターの新たな決意と支援の要望』と題した要望書を提出しました。高齢者の就業機会の確保など、センターが地域課題に対して果たす役割の重要性を示し、安定的な運営への支援を要望するもので、杉岡村長が「今後の施策の参考にしたい」と述べ受領しました。



魅力満載「あぶロマツアー! いいたての冬!」

1月24日・25日、「あぶロマツアー! いいたての冬!」が、農業研修館さりり・宿泊体験館きりもりの駅まごころを会場に1泊2日で開催されました。主催は村も加盟する、あぶくまロマンチック街道構想推進協議会です。ツアーには35人が参加し、草木染めや蕎麦打ちなどを体験。また、天文学者の寺蘭淳也先生による天文講座を楽しみ、冬の飯館の満天の星を観賞しました。「空気が澄んで星空が美しかった」「地元の方と交流もできて体験が楽しかった」と参加者の心に残るツアーとなったようです。



「いいたて愚真会」の指導で蕎麦打ち体験。

郷土料理にも親しみました。写真は凍み餅の調理。



ナツハゼ生産者の菅野クニさん(宮内)を講師に色のバリエーションが美しいナツハゼの草木染めを体験。

『蟲となかよしの会』カードゲーム「蟲神器」のイベント村内初開催

2月22日、交流センター「ふれ愛館」で、カードゲーム「蟲神器」のイベント『蟲となかよしの会』が開催されました。「蟲神器」は、100円ショップDAISOのグループ企業・大創出版が制作したトレーディングカードゲーム。虫をモチーフにしたカードで20枚のデッキを組み、2人対戦でゲームを楽しめます。

いいたて希望の里学園で、このゲームをSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)に活用していたことをきっかけに、「楽しんでくれている子ども達のために」と公認サポーター主催のイベントが開催されたものです。大人に混じって村内外の子ども達が参加し、午前に行われた大会では、大谷実夢さん(いいたて希望の里学園6年)が優勝を飾りました。対戦相手から「自分にはない発想だった」「カードの使い方がうまいね」と称賛され、「考えながら遊ぶのが楽しいです」と喜びを語りました。午後には、ランダムなカードが配られる形式で、参加者が対戦を楽しみました。



競技中は大人も子どもも対等です。決勝戦の対戦を楽しむ大谷さん(手前の対戦の左側)。



今回のイベントを企画・開催した蟲神器公認サポーターの「へーけ」さんこと星嵩広さん(郡山市)。「20枚のデッキが110円で購入できて、年齢に関係なく遊べます。他県には地域おこしに活用している自治体もあります」。

花農家が情報を共有する勉強会がスタート

2月13日、「トルコギキョウ研究室」が第1回の勉強会を開催しました。令和2年に移住し就農した花農家の小原健太さん(上飯樋)が、自身のハウスと栽培方法を公開し、生産者同士の情報共有の場にしようと立ち上げたもので、室長は赤石澤忠則さん(上飯樋)が務めます。

初めての勉強会は、JAふくしま未来飯館支店の会議室で開かれ、小原さんが、集まった皆さんに会の趣旨や進め方を説明。「皆さんのおかげで初心者の方も花をつくってこられたことに感謝をしています。さまざまな生産地を訪れ見聞きした情報などもお伝えしていきたい」と思いを伝えました。ベテランの生産者も経験談や失敗談をフランクに語り合い、よりよい花づくりに向き合う生産者のつながりや意欲が感じられるスタートとなりました。

村内の生産者の他、ゲストとして県の普及員らが出席。栽培時期に合わせてさまざまな方を招く予定で、この日は資材業者が消毒方法のトレンドなどを紹介し参加者の質問にも答えました。

